

**地域医療構想 1, 069 床削減 (6 年間で)**

**今後さらに 2, 039 床 (2025 年までに) 削減する方針**

3 月 24 日 (木)、和歌山県地域医療構想の和歌山圏域調整会議が開催されました。この中で、2021 年 7 月 1 日現在の速報値が示され、2015 年 7 月 1 日に比べて 6 年間で 1, 069 床が削減されたことが明らかになりました。また、2025 年にむけて今後さらに 2, 039 床を減らす計画です。

**★感染症病床を今ある一般病床の中で確保する方針**

コロナ禍によるベッド確保はこの時点で 630 床ですが、もともと感染症病床は 32 床しかありませんでした。地域医療構想には感染症病床の確保は加味されていません。それで 2025 年に向けて感染証病床の必要数を再検討しなければなりません。県は今ある一般病床の中で、感染証病床として使用するベッドを指定して、看護師等スタッフを平時から余裕をもって保持できるように補助金や診療報酬で手当すると説明しています。

**★4 人以上の医師がなければ救急医療ができなくなる**

医師の労働時間の制限が 2024 年度から法制化されます。これに伴って各医療機関では医師数を増やさなければ夜間や休日の診療ができなくなるおそれがあります。県の説明では 1 つの診療科で 4 人以上の医師を確保しなければ救急医療ができなくなるとしています。国は医療資源の効率化・重点化を打ち出しており、医師不足がベッド削減に拍車をかけることが懸念されます。

**★紹介状を持たない患者の定額負担の拡大**

紹介状を持たない患者から定額負担を取る仕組みが拡大強化されます。現在は 400 床以上の大病院に限られていますが、今後 200 床以上の病院に拡大されるとともに、定額負担も 5, 000 円から 7, 000 円に引き上げられ、病院に入る診療報酬は 2, 000 円減らされます。県内では現在は 6 病院が対象ですが、さらに 5 病院が増えることが予測されます。現在定額負担を取っている病院は 10 月から 7, 000 円になります。新たに対象になる病院は来年 10 月までに 7, 000 円負担を取ることになります。

**◎75 歳以上の医療費 2 割負担中止を  
減らない年金制度の拡充を**

**県社保協 年金天引き日宣伝 ウクライナ募金も寄せられました。**

4 月 15 日 (金)、県社保協は年金天引き日宣伝活動を公園前で実施しました。14 人が参加し、年金署名 2 筆、75 歳以上医療費 2 割負担中止署名 1 筆が集まりました。

ウクライナへの人道募金もおひとりから寄せられました。

